

第4回 静岡市下水道使用料懇話会会議録

- 1 日時 平成17年11月22日(火) 10時00分～11時55分
- 2 場所 静岡市役所 清水庁舎3階 308会議室
- 3 出席者 (委員)鈴木会長、安形委員、芦澤委員、岩瀬委員、劔持委員、小長井委員、後藤委員、清水委員、竹内委員、仲澤委員、内野委員、青山委員、家木委員、小泉委員、佐藤委員
(事務局)若林下水道部長、荒木下水道部理事、小林部参与兼下水道総務課長、今井下水道計画課長、宮原下水道建設課長、立川下水道維持課長、飯田下水道施設課長、井上清水上下水道サービス課長、島崎静岡上下水道サービス課長
大原下水道総務課参事兼統括主幹、杉山下水道総務課参事兼統括主幹
(傍聴) 3人
- 4 静岡市下水道部長あいさつ
- 5 会長あいさつ
- 6 議事
- (1) 第3回静岡市下水道使用料懇話会意見について
第3回静岡市下水道使用料懇話会意見について事務局小林部参与兼下水道総務課長が説明を行う。
- (2) 静岡市の下水道使用料体系の一元化に関する基本的考え方(案)について
静岡市の下水道使用料体系の一元化に関する基本的考え方(案)について事務局小林部参与兼下水道総務課長が説明を行う。
- (3) 下水道使用料一元化(案)について
下水道使用料一元化(案)について事務局小林部参与兼下水道総務課長が説明を行う。
- 7 懇話会において提出された質問、意見等は下表のとおり。(発言順、内容は要約)

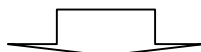
委員名	質問、意見等の要旨
家木委員	コスト縮減の目標値は12%というのは市全体でわかるが、金額に換算するとどの程度か。
清水委員	経費回収率が100%以上のところがあるが、これは普及率が高いということか。それとも、何か戦略的な要因があるのか。
青山委員	段階的に使用料一元化を行った場合、新たに発生する事務経費はあるか。もしあるならば、無駄な経費という気がする。
鈴木会長	今回事務局が提示した案は、前回の素案に懇話会の意見をかなり反映していると思う。

その他の意見はなく、静岡市下水道使用料体系の一元化に関する基本的考え方(案)及び下水道使用料一元化(案)について了承。

8 静岡市下水道使用料に関する意見書（案）について（議事外：参考）

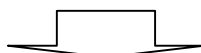
静岡市公営企業管理者に対し、懇話会の意見を意見書という形式で伝えたらどうかと会長より提案。異議がなかったため、会長の作成した静岡市下水道使用料に関する意見書（案）について、意見交換が行われた。

委員名	意見交換内容の要旨
仲澤委員	1の公共下水道事業の必要性については、市民の方も十分理解していると思うので、不要ではないか。
竹内委員	私は必要性は外せないと思う。下水道を考えることを通じて、汚水処理の重要性、日々の何気ない生活が環境へ影響を与えることまで、一般市民の意識を高めることが大切だと思う。使用料の改定だけという狭い範囲でなく、大きな視点からもう一度生活を見直すというソフト面の充実というか意識改革が重要ではないか。
芦澤委員	必要性はあえて外す必要はないと思う。まだまだ下水道自体に関心がない、知らないという市民は多いのではないかと。下水道というとトイレの排水ぐらいしか考えない人も多いと思う。まず、下水道というものが本当に必要だということの周知徹底が大切だと考える。



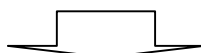
大前提として原案どおり残すことで合意。環境という側面からの記述を充実させる方向で検討。

委員名	意見交換内容の要旨
仲澤委員	2の一般会計からの補助金投入はやむを得ないというのは、懇話会で判断すべきことではないと思うので、表現を改めた方がよい。原則から言えば独立採算制だが、事業の現状を踏まえると、今後においても必要最小限の一般会計の補助金を活用して積極的に推進していく、ということではよいのではないかと。



意見に沿って修正することで合意。

委員名	意見交換内容の要旨
仲澤委員	2に公平性という観点を付け加える方がよいのではないかと。



意見に沿って「公平性、必要性、妥当性及び緊急性」と修正することで合意。

委員名	意見交換内容の要旨
清水委員	補助金の支出は将来的にはなるべく少なくしていくべきだと考える。そこで、2の中に受益者負担のもとに経費回収率を向上していくという内容を盛り込んだらどうか。
内野委員	考え方のスタンスとして、受益者負担とか累進性とか財政の健全性といった懇話会の基本的姿勢を示すとわかりやすいと思う。



意見に沿った形で修正することで合意。

委員名	意見交換内容の要旨
内野委員	将来を見据えて、環境へのやさしさということを考えると、たとえばコージェネレーションシステムや燃料電池などによる再エネルギー化といった視点からの要望も追加した方がよいと思う。



意見に沿い、直接使用料の一元化とは次元が違うが間接的には影響するので、その他の意見として追加することで合意。

委員名	意見交換内容の要旨
仲澤委員	表記を見やすくした方がよい。一括施行という表現はあえて必要ないので。段階的施行についてですが、事務局の一例として示した内容は、18年度に一段階いれてすぐ本番となっているが、負担増の大きさを考えると、前半2年間は同じレベルで軽減する方法がよいのではないかと思う。



表記については意見に沿った形で工夫する。一元化ということについては総意となっているので、具体的手段として一気にいくかどうかという部分の表現となる。一括施行という用語は、他に適切な用語がないので、段階的施行との区別を明確にするために原案どおり残す。段階的施行を仮に実施した場合の具体的手段については、懇話会で結論づけることはないので、原案どおり「一部の委員からは・・・」という表現で対処する。上記内容で合意。

委員名	意見交換内容の要旨
仲澤委員	「一部の委員から・・・」という部分を附帯意見とすることはどうか。



「基本的には一括でよいという委員が多いが、複数の方から段階的施行を望む声があったという事実を、より正確に伝えるために附帯意見ではなく原案の表現とした。」という会長説明を了承し、原案どおりで合意。

その他追加意見等があれば、11月29日(火)までに各委員が事務局へ提出し、会長の作成した修正案を次回検討する。そして、正式に静岡市公営企業管理者へ意見書として提出することとなった。

会長 _____

委員 _____